

LMS を活用した短期大学生の授業における フィードバックコメントの効果

渡 邊 裕

Effects of Feedback Comments in Junior College Classes using LMS

WATANABE Hiroshi

キーワード：LMS、Moodle、フィードバックコメント、リアクションペーパー、学修支援

1. はじめに

我が国においては中央教育審議会（2012）の答申において教育の質的転換が示され、高等教育においても学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要となった。高等教育においても学生の主体的・対話的で深い学びを実現するためにさまざまな取り組みが報告されている（福山・山田 2019）。講義型授業の問題点の一つに、授業者と学生間の相互作用の乏しさが挙げられる。それを改善するための方法として、教員と学生が紙のシートをやり取りして、授業のまとめや到達度を確認する方法や、毎回の授業終了時にリアクションペーパーを提出させ、教員がフィードバックコメントを記入して次回授業時に返却するなどの取り組みがある（溝上 2007）。

授業においてリアクションペーパーを用いる方法は、特に大人数の講義や演習形式の授業において、学生に「自分のことを見ていてくれている」という感覚を生むことにも繋がり、学生の授業に対する動機を高める効果が期待できる。しかし受講人数が多い授業では教員の負担が大きくなる可能性があり、時間的なコストとその効果を天秤に

かける必要が生じる（向後 2006）。

そこで、本研究では学習管理システム（Learning Management System、以下 LMS）を用いてリアクションペーパーとそのフィードバックに相当する取り組みを実践することにした。保育者養成短期大学である埼玉東萌短期大学（以下、本学）では、2017 年度と 2018 年度の 2 年間、e ラーニングサービス社¹⁾ が提供する共用レンタルサーバー及び Moodle²⁾ をプラットフォームとする LMS を、主に授業資料提示と課題提出用のシステムとして利用してきた（渡邊 2019）。2019 年度からは学生との双方向ツールとしての活用を目指し、学生による授業の感想等を自由記述できるコメント入力機能と、教員によるフィードバックコメント入力機能を新たに活用することにした。

今回の実践の結果、授業内容がほぼ同等であった 2018 年度と 2019 年度の最終回授業に行われた本学の授業評価アンケートの比較から、授業に対する満足度が 2019 年度で上昇したことが明らかになった。また 2019 年度の最終回授業に実施したアンケート調査の結果から、コメント入力とフィードバックコメント閲覧の実施が学生の意欲や満足度を高める効果のあることが確認された。さらに紙によるリアクションペーパーよりも、パソコンによるコメント入力とフィードバックコメント閲覧の方が学生にとっては気楽で楽しいと感じることについても明らかになった。

2. 研究の方法

2.1. コメント入力とフィードバックの方法

本学において2019年度前期に開講された1年生対象の基礎教養科目「情報機器演習Ⅰ」の授業において、LMSを用いた授業を実践した。サイトの名称は2019年度から「SAITAMATOH.NET」となり、大学の公開ホームページからもリンクされている。教育実習や保育実習の課題提出用サイトや複数の授業においてコースが開設されており、利用が広まってきている。学生には専用のアカウントが付与されており、スマートフォンからの利用も可能である。

図1に「情報機器演習Ⅰ」コースの初期画面を示す。コース内にはシラバスや授業関連資料が揭示されており、いつでも閲覧できる。学生は「情報機器演習Ⅰ」の授業時にPC教室の指定されたデスクトップ型パソコンを用いて授業課題に取り組み、授業の最後にLMSに設置された課題提出場所に課題を提出する。毎回の課題提出時には、ファイルの提出場所の上部に図2のようなオンラインテキストの入力画面が出るように設定した。学生はこの画面から毎回気軽にコメント入力を行うことができる。

学生からの提出物は通常、制作した課題ファイルとコメント（オンラインテキスト）であり、授業担当教員は授業後にこれらの提出状況を確認す



図1 SAITAMATOH.NET「情報機器演習Ⅰ」



図3 教員側フィードバックコメント入力画面の例



図2 学生側コメント入力画面の例



図4 学生側フィードバックコメント閲覧画面の例

ることができると同時に、フィードバックコメントを入力することができる。図3に教員側画面におけるフィードバックコメントの入力例を示す。入力されたフィードバックコメントは、図4に示すようにリアルタイムで学生側画面からも見るようになる。通常、学生は次の授業で「SAITAMATOH.NET」にログインし、授業開始前に前の時間のフィードバックコメントを確認した上で、その時間の授業課題に取り組むという流れで全15回の授業を実施した。

2.2. アンケート調査の方法

2019年8月26日、「情報機器演習Ⅰ」授業の第15回（最終回）の授業において質問紙を配布し、アンケート調査を行った。2019年度は2クラスの授業が開講され、履修者数は39名と38名の計77名であった。このうち72名からの回答があり、無効回答を除く計69名からの有効回答を得た。

資料2にアンケート調査の質問紙を示す。A3サイズで片面印刷1枚とした。回答時間は10分程度であった。学生にはあらかじめ「コメント入力とは、授業後に学生の皆さんが先生に書くコメントのこと」及び「フィードバックコメントとは、次の授業までに先生が返信するコメントのこと」であることを説明した。

この質問紙を用いて、「A 学生のLMS活用状況」、「B コメント入力の効果」、「C フィードバックコメント閲覧の効果」、「D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）」、「E 紙とパソコンによる違いの認識調査（2）」の計5項目について調査を行った。詳細は以下の通りである。

A 学生のLMS活用状況

「どの程度授業後の課題提出にLMSを用いたか」「授業後にどの程度コメント入力をしたか」「フィードバックコメントをどの程度閲覧したか」についての3問を設定し、選択肢は4件法とした。

B コメント入力の効果

「パソコンでのコメント入力に関する質問」の2問で構成した。選択肢は4件法（1. そう思う、

2. ややそう思う、3. あまりそう思わない、4. そう思わない）とした。

C フィードバックコメント閲覧の効果

「教員との関係性についての質問（2問）」、「興味関心意欲についての質問（3問）」、「授業の有用性についての質問（3問）」の4カテゴリ計9項目の質問で構成した。なお、「授業の有用性についての質問（3問）」のうち1問には逆転項目を設けた。

D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）

「紙ではなくパソコンにコメントを入力することについての認識を問う質問」の4問を設定し、選択肢は4件法（1. そう思う、2. ややそう思う、3. あまりそう思わない、4. そう思わない）とした。また、このうち1問には逆転項目を設けた。

E 紙とパソコンによる違いの認識調査（2）

「コメント入力とフィードバックコメントの閲覧に関し、紙とパソコンのどちらがよいかどうかを問う質問（各1問）」と、その理由を問う自由記述欄を設けた。

2.3. 研究倫理に関する配慮

回答にあたっては、授業の成績評価には一切関係しないことを説明したうえで、研究の目的と方法、調査期間、回答は自由意志によるものであること、今後の授業改善に活かすために個人情報等を伏せた形で報告書にまとめること等について記された文書（資料1）を配布し、調査用紙の提出をもって同意とすることの意思を確認した。

2.4. 分析方法

「A 学生のLMS活用状況」については度数分布とその割合を求め、円グラフを作成した。「B コメント入力の効果」、「C フィードバックコメント閲覧の効果」、「D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）」については、「そう思わない」を1、「あまりそう思わない」を2、「ややそう思う」を3、「そう思う」を4として平均値 M 、標準偏差 SD を算出した。「E 紙とパソコンによる

違いの認識調査（2）」については度数分布とその割合を求め、その偏りについて分析を行うと共に、自由記述については回答パターン文を作成し、それぞれのパターン文ごとに回答数をまとめることで分析を行った。

3. 結果

3.1. 学生のLMS活用状況

図5～図7に「A 学生のLMS活用状況」の調査結果を示す。この調査の有効回答は58名であった。

「A1 全15回の授業のうち、あなたはSAITAMATOHO.NETに何回程度課題（課題ファイルを含む）を提出しましたか？」の質問では、56名が「ほぼ毎回提出した」と答え、2名が「数回程度できないことがあった」と回答した。「半分程度できないことがあった」「ほとんど課題を提出できなかった」は0名であった。

「A2 全15回の授業のうち、あなたはSAITAMATOHO.NETに何回程度コメント（授業の感想など）を入力しましたか？（ただし、書かなくてもよい、という授業回を除く）」の質問

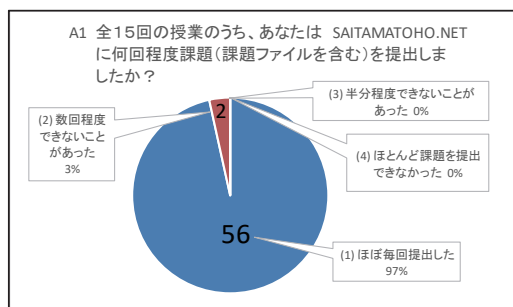


図5 質問項目 A1 の結果

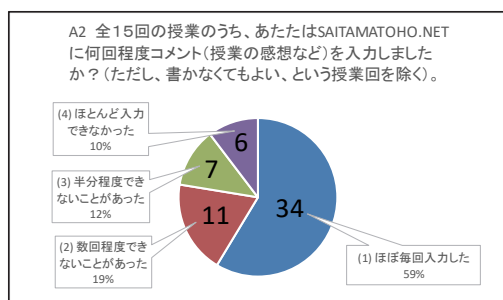


図6 質問項目 A2 の結果

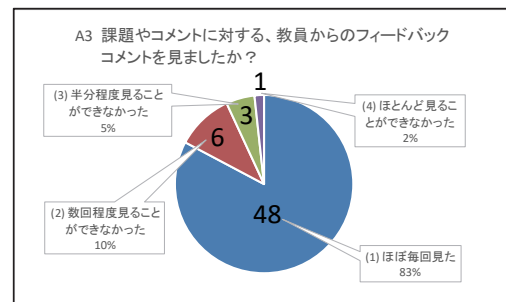


図7 質問項目 A3 の結果

では、「ほぼ毎回入力した」が34名、「数回程度できないことがあった」が11名、「半分程度できないことがあった」が7名、「ほとんど入力できなかった」が6名であった。

「A3 課題やコメントに対する、教員からのフィードバックコメントを見ましたか？」の質問では、「ほぼ毎回見た」が48名、「数回程度見ることができなかった」が6名、「半分程度見ることができなかった」が3名、「ほとんど見ることができなかった」が1名であった。

3.2. コメント入力及びフィードバックコメント閲覧の効果

表1に「B コメント入力の効果」に関する調査の質問番号と質問項目を示す。また、表2に「C フィードバックコメント閲覧の効果」に関する調査のカテゴリ、質問番号、質問項目を示す。また、図8にこれらの質問項目ごとの平均値と標準偏差の結果を示す。この調査の有効回答は69名であった。

「B コメント入力の効果」に関する質問では、「B1 パソコンにコメント入力するのが楽しかった」、「B2 パソコンにコメント入力できる機能があることで、授業の満足度が上がった」はそれぞれの平均値が3.61、3.62と比較的高い値にあり、一方向の授業ではなく学生が思ったことや感じたことを教員に伝えるためのコメント機能があることに一定の効果が示された。

「C フィードバックコメント閲覧の効果」について尋ねた質問のうち、「教員との関係性」のカテゴリに属する2つの質問「C1 フィードバックコメ

表1 「B コメント入力の効果」に関する調査項目

| 質問番号 | 項目 |
|------|------------------------------------|
| B1 | パソコンにコメント入力するのが楽しみだった |
| B2 | パソコンにコメント入力できる機能があることで、授業の満足度が上がった |

表2 「C フィードバックコメント閲覧の効果」に関する調査項目

| カテゴリ | 質問番号 | 項目 |
|---------|------|-------------------------------------|
| 教員との関係性 | C1 | フィードバックコメントのおかげで先生と気軽に話ができた |
| | C2 | フィードバックコメントを見るのが楽しみだった |
| 興味関心意欲 | C3 | フィードバックコメントは学習の興味や関心を高める |
| | C4 | フィードバックコメントは授業に取り組む動機や意欲を高める |
| | C5 | フィードバックコメントのおかげでやる気が出た |
| 授業の有用性 | C6 | フィードバックコメントは授業の参考になった |
| | C7* | フィードバックコメントはあまり役にたたなかった |
| | C8 | フィードバックコメントのおかげでパソコンが上達した |
| 満足度 | C9 | 先生からのフィードバックコメントがあったことで、授業の満足度が上がった |

*は逆転項目を表す

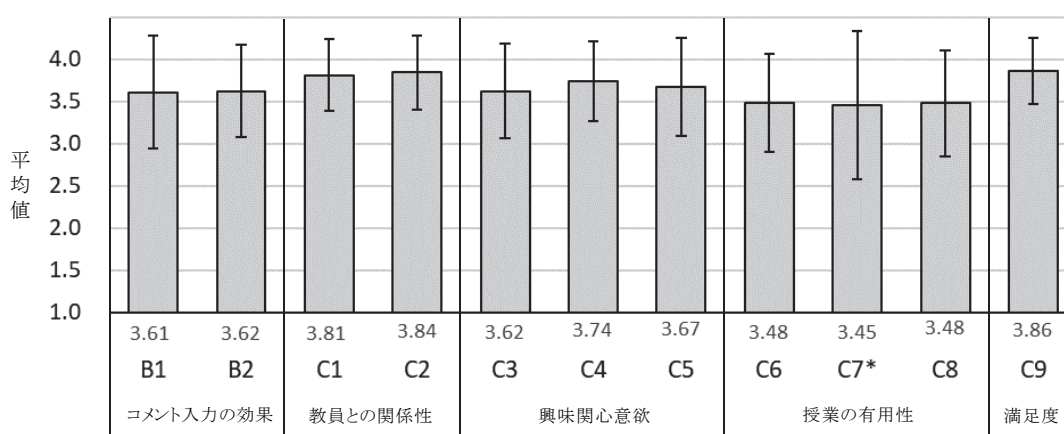


図8 「B コメント入力の効果」及び「C フィードバックコメント閲覧の効果」の結果

ントのおかげで先生と気軽に話ができた」、「C2 フィードバックコメントを見るのが楽しみだった」はそれぞれの平均値が3.81、3.84と高い値にあり、フィードバックコメントが教員と学生との関係性を円滑にする効果を挙げていると推測できる。

さらに「興味関心意欲」のカテゴリに属する3つの質問「C3 フィードバックコメントは学習の興味や関心を高める」、「C4 フィードバックコメントは授業に取り組む動機や意欲を高める」、「C5 フィードバックコメントのおかげでやる気が出た」についても、それぞれの平均値は3.62、3.74、3.67と比較的高い値にあった。フィードバックコメントが学生の意欲を高める効果につながってい

ることが推測できる。

また「授業の有用性」のカテゴリに属する3つの質問「C6 フィードバックコメントは授業の参考になった」、「C7 フィードバックコメントはあまり役にたたなかった（逆転項目）」、「C8 フィードバックコメントのおかげでパソコンが上達した」についてはそれぞれの平均値が3.48、3.45、3.48と比較的高い値ではあったが、今回調査した4つのカテゴリの中では最も低い値となった。なお、C7は逆転項目であるため、調査結果の数値を逆転させて平均値を求めている。

「満足度」のカテゴリに属する「C9 先生からのフィードバックコメントがあったことで、授業の

表3 「D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）」に関する調査項目

| 質問番号 | 項目 |
|------|--|
| D1 | パソコンにコメントを入力するのは、紙に書くよりも大変だ |
| D2 | パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよりも気楽で書きやすい |
| D3 | パソコンにコメント入力することで紙に書くよりも気楽に先生と話げできた |
| D4 | パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよりも書きにくいことを書くことができる |

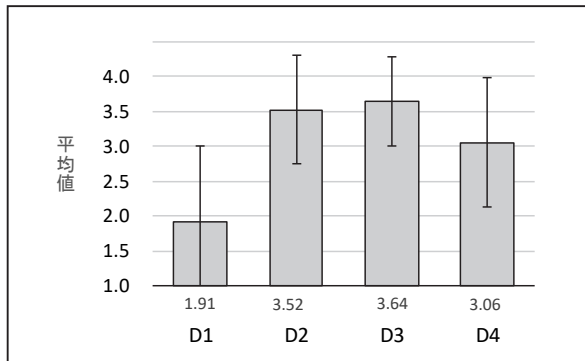


図9 「D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）」の結果

満足度が上がった」については、平均値が 3.86 と最も高い値となった。フィードバックコメントが授業の満足度を高める効果があることが示された。

3.3. コメント入力及びフィードバックコメントの紙とパソコンによる違い

表3に「D 紙とパソコンによる違いの認識調査（1）」の質問番号と質問項目を示す。また図9にこれらの質問項目ごとの平均値と標準偏差の結果を示す。この調査の有効回答は69名であった。

「D1 パソコンにコメントを入力するのは、紙に書くよりも大変だ」の平均値は1.91であった。この質問項目は逆転項目であるが、今回は調査結果の平均値をそのまま表示している。この質問は、コメントを入力する際に、パソコンと紙とではどちらが大変かを質問しているが、今回の結果はパソコンの方が大変だと答えた数が少ないことを意味している。「D2 パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよりも気楽で書きやすい」の平均値は3.52、「D3 パソコンにコメント入力することで紙に書くよりも気楽に先生と話げできた」は3.64であり、比較的高い値となった。「D4 パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよ

りも書きにくいことを書くことができる」については3.06に留まった。

4. 考察

4.1. 学生のLMS活用状況について

図5の結果によると、学生はほとんどの学生が毎回LMSを活用して課題を提出していることがわかる。この状況は課題ファイルの提出状況からも確認できている。課題が提出できない学生は、パソコンのトラブルやうっかり忘れてしまった等の可能性が高く、それ以外の学生は全員うまく利用できていることがわかる。

図6の結果では、パソコンによるコメント入力の状況が示されている。59%の学生がほぼ毎回入力したと回答している。その反面、ほとんど入力できなかった学生も10%程度いることがわかる。この理由は、おそらく課題の作成に時間を費やしてしまったり、課題の保存や提出に手こずりコメントを入れている時間が無くなってしまったことが考えられる。従って、図6の結果は学生のパソコンスキル状況を反映している可能性が高いと考えられる。

図7の結果より、フィードバックコメントについては83%の学生がほぼ毎回見たと回答している。見るだけならコメントを入力するよりも操作は楽であるが、前回課題のフィードバックコメントを見るためには、学生は授業中に前回の課題を開く必要があり、その操作をする余裕も無かった者がいることも想定される。

4.2. コメント入力及びフィードバックコメント閲覧の効果

図8の結果より、授業のパソコンにコメント入

力する機能があることで、入力が楽しみであったり授業の満足度が上がるという回答が多く、その有効性が示された。

今回の取り組みでは、学生にオンラインテキスト入力画面を提供するだけで、コメント入力の内容については特に制限を設けず、コメントを入力するかどうかは学生の自主性に任せていた。その結果、学生が入力したコメントの内容は多岐に渡ったが、大別すると以下のような内容であった。
①授業で難しかったことやつまづいた問題の報告、②授業で頑張ったことの報告、③授業の感想、④授業以外の報告、といった内容である。

①については、学生が授業で困ったことについて教員が把握できるのみならず、学生が自分の気持ちを吐き出すためにも非常に重要であると考ええる。パソコンの苦手な学生は、つまづいたことでさらにパソコンが嫌いになる傾向にある。出来なかった、というストレスをどこかで発散する仕組みが必要であり、コメント入力が一助となる可能性がある。

②については、学生がしっかり頑張ったことを教員に報告することで、次の授業でも頑張ろうという意欲につながることを想定される。パソコンのような実習授業において、教員が授業に一人しかいないという場合には、できない学生に教員が個別説明に駆け付けることが多くなる。その結果、逆にできる学生や優秀な学生に目が行き届かなくなる危険性が常に存在するのである。

③は教員が授業が成功したかどうかを確認するためには貴重な情報となり、授業改善につなげるための足掛かりとなる。今回の授業は簡単であったとか難しかったという一言であっても、時として教員側の予想とは異なる感想が寄せられることがある。

④は学生の普段の様子を知ることができ、学生と教員の信頼関係を構築するための情報が提供されることがある。特に、普段はほとんど会話をしない学生が、予想に反してたくさんコメントを入力してくれることもあり、それが個別指導に活かすための重要な情報源となることがある。

このように、学生のコメント入力はパソコンの文字入力の練習という側面のみならず、多くの情報を提供する貴重な情報源であると考えられる。

4.3. フィードバックコメント閲覧の効果

図8の結果より、フィードバックコメントによって特に学生に高い評価を得たのは教員との関係性と満足度であることがわかる。

今回フィードバックとして入力したコメントは、数行程度の内容であった。①授業で難しかったことやつまづいた問題の報告については、自分のペースで課題に取り組み全部できなくても良いこと、先生が指導に来れないときには周りの学生に相談することを中心にフィードバックを行った。学生が出来なかったことにストレスを感じている様子であれば、出来た部分を褒めるように指導を行った。②授業で頑張ったことの報告については、パソコンの得意な学生はさらに意欲が増すよう励ますことを中心に指導した。③授業の感想や④授業以外の報告については、それぞれ個別に数行程度のコメントを返した。

こうしたフィードバックコメントを返すことで、前回の授業の振り返りができるという効果もあり、授業に連続性が生まれるように思われる。授業の際に教員が学生の個別指導ができる時間はごく限られており、学生の質問に対して常にタイムリーに応えられる訳ではない。不足する指導内容や教員との関係性を、フィードバックコメントを返すという活動を通して補うことができるという効果が期待できる。その結果、授業に対する満足度を上げるという効果にも結び付いていると考えられる。

また、「興味関心意欲」や「授業の有用性」においても一定の効果が確認できた。その中でも「C4 フィードバックコメントは授業に取り組む動機や意欲を高める」の平均値が3.74と高く、フィードバックコメントがやる気にも結びついていることが確認できた。

4.4. 授業評価アンケートとの関連について

本学ではFD委員会が主体となって、各授業の第15回（最終回）において14項目の質問が記入されたマークカード及びコメント記入用紙を学生に配付し、授業評価アンケートを実施している。「情報機器演習Ⅰ」のアンケート結果によると、2018年度は58名、2019年度は71名の有効回答があった。

「教員の熱意は感じられましたか？」の質問項目では4件法（1. とても熱意が感じられた、2. 熱意が感じられた、3. 熱意はあまり感じられなかった 4. 熱意は感じられなかった）による回答を求め、「とても熱意が感じられた」を4、「熱意が感じられた」を3、「熱意はあまり感じられなかった」を2、「熱意は感じられなかった」を1として平均値 M および標準偏差 SD を算出した。この結果、2018年度は $M=3.64$ 、 $SD=0.52$ であり、2019年度は $M=3.86$ 、 $SD=0.39$ であった。ウェルチ法による t 検定の結果、両群の平均値の差は有意であり（ $t=2.685$, $df=103.46$, $p=0.008$, $effect\ size\ d=0.489$, $power=0.758$ ）、2018年度よりも2019年度の方が教員の熱意が感じられたと判定された。

「この科目で全体的に得られた成果について、たいへん満足している」の質問項目では4件法（1. よくあてはまる、2. だいたい当てはまる、3. あまり当てはまらない 4. 全く当てはまらない）による回答を求め、「よくあてはまる」を4、「だいたい当てはまる」を3、「あまり当てはまらない」を2、「全く当てはまらない」を1として平均値 M および標準偏差 SD を算出した。この結果、2018年度は $M=3.48$ 、 $SD=0.56$ であり、2019年度は $M=3.80$ 、 $SD=0.40$ であった。ウェルチ法による t 検定の結果、両群の平均値の差は有意であり（ $t=3.611$, $df=99.22$, $p=0.001$, $effect\ size\ d=0.662$, $power=0.947$ ）、2018年度よりも2019年度の方が満足していると判定された。

2018年度と2019年度の授業内容はほぼ同一であったことから、2019年度に実施したLMSによるコメント入力とフィードバックコメントの影響

が授業評価アンケートのこれらの質問項目の平均値を高めた可能性がある。

4.5. 紙とパソコンによる違い

入学時のアンケート調査によると、調査対象者はパソコンの得意な学生よりも苦手な学生の方が多いという結果になっている。しかし、学生のほとんどはスマートフォン利用者であり、普段からLINEやSNSなどのメディアを多用している。コメントやフィードバックコメントを入力する際に、紙とパソコンとで違いがあるのかどうかについては興味のある課題であった。

図9の結果から、パソコンにコメントを入力の方が、紙に書くよりも気楽で書きやすく、気楽に先生と話をすることができたということがわかる。

また「E 紙とパソコンによる違いの認識調査(2)」の結果からも、コメント入力、フィードバックコメント共に、紙ではなくパソコンでやり取りの方がよいという結果が得られている。自由記述の結果からは、コメント入力をパソコンで行った方がよいとする理由としては、「パソコンの方が楽」、「パソコンの方が気軽」、「パソコンの方が先生と楽しく話せる」「漢字の間違いなどを気にしないで打てる」「言いにくいこともパソコンだと簡潔に言える」等の回答が多い。また、フィードバックコメントをパソコンで行った方がよいとする理由としては、「すぐに見ることができてなくす心配がない」「メールをしているみたいで距離が近いと感じる」「字の癖などがいいので見やすい」「見るのが楽しみでわくわくする」などの回答が寄せられた。

5. まとめ

フィードバックコメントの有用性については、これまでの調査研究においても指摘されてきた（向後 2006、小野田・篠ヶ谷 2014 等）。本研究では全15回の授業において学生がコメント入力とフィードバックコメントの閲覧といった活動を継

続的に行うことにより、授業最終回のアンケートから授業に対する動機や意欲、満足度が上がったことが明らかになった。

今回の調査対象となった学生は77名であり、そのすべてにフィードバックコメントを返すには一定の時間が必要である。フィードバックコメントは効果的であるが、それに費やされる教員の負担は軽いものではない。しかし、今回LMSというシステムを用いていることで、今後は自動返信や適切な返信文面のパターン化など、紙のリアクションペーパーでは実現できなかった効率的な個別指導の実現に向けた可能性が広がったと考えている。

西森ら（2018）は多人数授業におけるグループワークを支援するグループウェアの開発を行い、共同学習や協調学習の場面における有効性を報告している。このようなシステムとLMSとを連動させることで、教員が適切に学生に介入することが可能となるように思われる。フィードバックコメントには、学生の意欲や満足度の向上のみならず、教員と学生間の信頼関係の向上や、学生理解の一助としての効果も大きい。また、紙では言いにくいこともパソコンの画面に入力することで、学生がSNSでのやりとりのように気軽に教員に意見や感想を述べることができるという効果も確認された。ICT環境のメリットを活かすためにはこれらのシステムを適切に運用し、授業に導入することも求められる。そのための方法を今後も模索していきたい。

引用文献

- 中央教育審議会（2012）予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
（参照日：2019.12.16）
- 福山佑樹，山田政寛（2019）高等教育におけるアクティブラーニング実践研究の展望．日本教育工学会論文誌，**42**（3）：201-210
- 向後千春（2006）大福帳は授業の何を変えたか．日本教育工学会研究報告集，**6**：23-30
- 溝上慎一（2007）アクティブ・ラーニング導入の実践的課題．名古屋高等教育研究，**7**：269-287
- 西森年寿，加藤 浩，八重樫文，望月俊男，安藤拓生，奥林泰一郎（2018）多人数授業におけるグループワークの運営を支援するグループウェアの開発と評価．日本教育工学会論文誌，**42**（3）：271-281
- 小野田亮介，篠ヶ谷圭太（2014）リアクションペーパーの記述の質を高める働きかけ—学生の記述に対する授業者応答の効果とその個人差の検討—．教育心理学研究，**62**：115-128
- 渡邊裕（2019）保育者養成短期大学におけるLMSを活用した情報機器演習の授業実践とその評価．小池学園研究紀要，**17**：41-49

渡邊 裕 （埼玉東萌短期大学准教授）

注

- 1) 株式会社 e ラーニングサービス
<http://www.e-learning-service.co.jp/>
（参照日：2019.12.16）
- 2) Moodle
<https://moodle.com/>
（参照日：2019.12.16）

資料1 研究依頼文書

2019年8月26日

埼玉東萌短期大学 学生の皆さんへ

「情報機器演習Ⅰ」調査研究へのご協力のお願い（依頼）

「情報機器演習Ⅰ」では、授業を通して学生の皆さんがどのように情報活用能力を身に付けたのかについての調査研究を行っております。調査結果は公表し、今後の授業改善に活用していきたいと思えます。下記をご確認のうえ、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

記

1. 調査の目的と方法

「情報機器演習Ⅰ」の授業についてアンケートを行うことで、学修支援のための e-learning サイト「SAITAMATOH.NET」のコメント入力やフィードバックの機能が、学生にどのような効果をもたらしたのかについて調査します。

2. 調査期間

2019年4月～2019年8月

3. 研究への参加協力の自由意志と拒否権

研究への協力は、研究協力者の自由意思により決定し、拒否できることを保障します。また、研究協力を断ることによる不利益は発生しないことや、プライバシーや個人情報の保護に十分配慮すること、研究協力による負担や不快への配慮を考慮いたします。

4. プライバシー及び個人情報の保護

アンケート調査の結果は調査の目的に限って使用し、個人が特定できるような情報を公表することはありません。また、回答内容が学生の皆さんへの評価に影響することは一切ありません。

5. 研究結果の公表方法

本研究は、小池学園研究紀要や関連学会にて公表する予定です。公表の際にも、その際にも個人が特定されることがないように、個人情報保護への配慮を十分にいたします。

6. その他

研究に参加・協力することに関する質問や、倫理的な質問やご意見については、下記までご連絡ください。

埼玉東萌短期大学幼児保育学科 渡邊 裕

資料2 質問紙

2019年8月26日(月)

～情報機器演習Ⅰ アンケート～

このアンケート実施に先立ち、アンケートの目的、調査研究への参加協力についての自由意思と拒否権、プライバシー及び個人情報の保護、研究結果の公表方法についての説明を行います。

これらの回答は、皆さんの評価には一切関係しません。

アンケートの趣旨を理解し、ご協力いただける場合には以下に回答をお願いします。

1. 「情報機器演習Ⅰ」の授業について質問します。以下の(1)～(3)の質問について、あてはまる①～④の項目に1つマルを付けてください。

(1) 全15回の授業のうち、あなたはSAITAMATOHO.NETに何回程度課題(課題ファイルを含む)を提出しましたか?

(ただし、提出しなくてもよい、という授業回を除く)。

- ① ほぼ毎回課題を提出した
- ② 数回程度できないことがあったが、それ以外は課題を提出した
- ③ 半分程度できないことがあったが、それ以外は課題を提出した
- ④ ほとんど課題を提出できなかった

(2) 全15回の授業のうち、あなたはSAITAMATOHO.NETに何回程度コメント(授業の感想など)を入力しましたか?(ただし、書かなくてもよい、という授業回を除く)。

- ① ほぼ毎回コメントを入力した
- ② 数回程度コメントを入力できないことがあったが、それ以外はコメントを入力した
- ③ 半分程度コメントを入力できないことがあったが、それ以外はコメントを入力した
- ④ ほとんどコメントを入力できなかった

(3) 課題やコメントに対する、教員からのフィードバックコメントを見ましたか?

- ① ほぼ毎回フィードバックコメントを見た
- ② 数回程度は見ることはできなかったが、それ以外はフィードバックコメントを見た
- ③ 半分程度は見ることはできなかったが、それ以外はフィードバックコメントを見た
- ④ ほとんどフィードバックコメントを見なかった

2. 以下の質問について、あてはまるものに○をつけてください。

※コメント入力とは、授業後に学生の皆さんが先生に書くコメントのこと

※フィードバックコメントとは、次の授業までに先生が返信するコメントのこと

| | | そう思う | そう思う やや | あまり 思わない | そう 思わない |
|---|--|------|------------|-------------|------------|
| 1 | パソコンにコメントを入力するのは、紙に書くよりも大変だ | | | | |
| 2 | パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよりも気楽で書きやすい | | | | |
| 3 | パソコンにコメントを入力する方が、紙に書くよりも書きにくいことを書くことができる | | | | |
| 4 | パソコンにコメント入力をする事で紙に書くよりも気楽に先生と話ができた | | | | |

| | | | | | |
|----|-------------------------------------|--|--|--|--|
| 5 | パソコンにコメント入力できる機能があることで、授業の満足度が上がった | | | | |
| 6 | パソコンにコメント入力するのが楽しかった | | | | |
| 7 | フィードバックコメントは学習の興味や関心を高める | | | | |
| 8 | フィードバックコメントは授業に取り組む動機や意欲を高める | | | | |
| 9 | フィードバックコメントのおかげでパソコンが上達した | | | | |
| 10 | フィードバックコメントのおかげでやる気が出た | | | | |
| 11 | フィードバックコメントは授業の参考になった | | | | |
| 12 | フィードバックコメントはあまり役に立たなかった | | | | |
| 13 | フィードバックコメントを見るのが楽しかった | | | | |
| 14 | フィードバックコメントのおかげで先生と気軽に話げできた | | | | |
| 15 | 先生からのフィードバックコメントがあったことで、授業の満足度が上がった | | | | |

3. あなたは授業のコメントを書く場合、「紙に書く方法」と「パソコンに入力する方法」とでは、どちらがよいですか。あてはまる①～③の項目に1つマルを付けてください。また、そう答えた理由を述べてください。

- ① 紙（リアクションペーパー）に筆記具で記入する方がよい
- ② パソコンでコメント入力する方がよい
- ③ どちらでもない

そう答えた理由：

4. あなたは授業のフィードバックコメントをもらう場合、紙に書いてもらう方法とパソコンで返信してもらう方法とでは、どちらがよいですか。あてはまる①～③の項目に1つマルを付けてください。また、そう答えた理由を述べてください。

- ① 紙（リアクションペーパー）に筆記具で書いてもらう方がよい
- ② パソコンでコメント返信してもらう方がよい
- ③ どちらでもない

そう答えた理由：

| 学年 | クラス | 学籍番号 | 氏名 |
|----|-----|------|----|
| 1 | | | |

ご協力ありがとうございました